

3月1日(火)、生憎の雨模様の中、高校の卒業式が行われました。男女共学の一期生として260名の生徒が胸を張って卒業しました。

以下は、式辞(一部削除)です。

冬の寒さがいつにもまして長引きました。やっと春らしさが訪れたようです。

卒業生のみなさん、卒業、おめでとうございます。

保護者のみなさま、ご子女のご卒業、誠におめでとうございます。また、この3年間、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。そして、ご多用の中をご臨席いただきましたご来賓のみなさまに、心からお礼申し上げます。



「自分の役割を全うする」

みなさんは本校の校名が変わり、男女共学となって最初の生徒として入学しました。感動の入学式、今でも忘れられません。この3年間は初めてづくしのことが多く、みなさんも我々教職員も戸惑うことが多い中を過ごし、あっという間の3年間だった思います。特にこの2年間は、コロナ禍の中にあり、さまざまに意識の変革を求められました。実に不自由な学校生活だったことを残念に思いますが、みなさんの奮闘と活躍は素晴らしいものがありました。そして、みなさんから学ぶこともありました。ありがとうございました。

昨日、卒業生のある生徒から次のような手紙をいただきました。「高校生活3年間お世話になりました。どうしても伝えたいことがあるので手紙を書かせていただきました。私は公立高校を受験し落ちて協創高校に入学しました。当時の私は受験を失敗したことで自暴自棄になっていました。勉強なんてどうでもいい、高校生活なんてどうでもいい、どうせ落ちこぼれなんだからと入学する前まではそう考えていました。ですが、入学式の時に校長先生がこう仰ってくださいました。『この学校に入学した人の中には本当はここに来るはずじゃなかったのに…』と知っている人がいるかもしれません。ですが、もう一度前を向いて私たちと一緒に3年間頑張ってみませんか?』と。私はこの言葉に救われ、もう一度前を向いていいんだと思えました。そして、私は“修道大学合格”という目標を掲げました。失

敗を成功に変える!と当時の私に約束しました。その2年後、無事に合格することができました。当時の自分との約束を果たすことができました。あの言葉がなかったら、今の私はいません。本当にありがとうございました。」

実は、みなさんに「覚悟をもって自分の役割や想いを全うする」ことの大切さについて話すつもりでしたが、この生徒がそのことを示してくれているではありませんか。「役割や想いを全うする」には、環境を整えたり、いい習慣を身につけたりすることも重要ですが、課題や難題を乗り越えようとする勇氣こそがそれ以上に求められるのです。失敗を恐れず挑戦することです。「挑戦が成長を生む」のです。

この「覚悟をもって自分の役割を全うする」ことは、教育目標「グローバル・イノベーション・リーダー」と建学の精神「報恩感謝・実践」をカタチにすることにもつながります。そして、「自分の役割を全うすること、それは私たちに与えられた「使命」とも言えます。「使命」とは命を使うと書きます。役割を全うすることは魂を揺さぶる行為です。だからこそ人として意味あることにつながるのです。

卒業生のみなさん、このカオスな時代、「この人に任せたい」と頼られる人を目指して力をつけ、生きていってください。そして、みなさんと出会った「縁」は我々の宝として大切にいたします。

2022年3月1日